

Retalabo

Workshop 04

KESIKI INC.

文化と経済の循環をつくる

KESIKI is a cultural brand builder.

We bridge culture and economy

to build brands loved everywhere.





加藤 優里

Yuri Kato
Insight Designer

行動科学の視点と行政での経験を交えながら、行動につながるカルチャーや政策づくりをリードし、行動科学とデザインの掛け合わせを探求する。

京都府宇治市出身。京都大学工学研究科を修了後、環境省にて気候変動、自然環境保全、廃棄物処理・資源循環分野において、国際交渉や企業支援等の政策に従事。
途中、英国に留学し、ウォーリック大学、University College Londonで行動科学（修士）を学ぶ。 2023年、KESIKIに参画。

NPO法人PolicyGarageのコアメンバー、一般社団法人環境行動デザインハブ理事、堺市環境行動デザインチームSEEDsアドバイザーを務め、研修、伴走支援、コミュニティ運営などを通して行動科学とデザインを掛け算した人間中心のアプローチで社会をよりよくすることに取り組む。

KESIKI

- 内閣官房・デジタル庁：デジタル行財政改革の新規政策コンセプト創出統括
- 兼松：ミッション・バリュー策定と変容の仕掛けのデザイン
- 大手自動車メーカー：カルチャー変容(対話ワークショップの設計・実施等)
- EVERYFOOD：創業60周年に向けたリブランディングと組織変革



RECRUIT

AARHUS UNIVERSITY

牛丸 維人

Masato Ushimaru
Director, Insight Design

人類学・デザイン・ビジネスの知見を越境しながら、ユーザーの声に深く根ざした多感覚的なデザインプロジェクトをリードする。

岐阜県飛騨高山生まれ。一橋大学で都市社会学・都市政策を専攻した後、株式会社リクルートにてメディア・SaaSプロダクトの事業戦略立案・企画推進に従事。2000人規模の大規模営業組織におけるグロース戦略立案と業績モニタリング、それに紐づく定量・定性リサーチを主導したほか、800人のインサイドセールス組織のオペレーション生産性向上プロジェクトをリード。

その後 Aarhus University（デンマーク）に進学し映像人類学の修士号（MSc in Visual Anthropology）を取得。フィリピン北部高原地域に滞在し長期間のエスノグラフィックリサーチと民族誌映像制作に従事。在学中よりKESIKI参画。人類学的知見を軸に深いインサイトを導出するデザインリサーチやサービスデザインを強みに、大企業における新規事業開発やイノベーション空間設計、中央官庁における政策コンセプト立案など幅広いプロジェクトを担当。個人でドキュメンタリー写真に関するプロジェクトに取り組むほか、武蔵野美術大学、東京大学、一橋大学等でレクチャーを担当。

KESIKI

- 野村不動産：BLUE FRONT SHIBAURA コンセプトデザイン
- ヤマト運輸：新規事業におけるユーザー体験デザイン
- 内閣官房・デジタル庁：デジタル行財政改革の新規政策コンセプト創出
- 大手ウェルネス・ビューティ企業：次世代事業コンセプト創出

九州大学芸術工学研究院



羽山 康之

芸術工学研究院
ストラテジックデザイン部門 助教

ミラノ工科大学大学院デザイン学研究科にて、博士（デザイン学）。デザインの物語主導型アプローチである「デザイン・ナラティブ・ワールドメイキング（DNW）」を研究。一橋大学商学部・商学研究科経営学修士コースを経て、デロイト・トーマツ・コンサルティングにて経営コンサルタントとして勤務。デザインによるイノベーションの方法に魅力を感じ、ミラノ工科大学に留学（ストラテジックデザイン）、株式会社AXISにてストラテジックデザイナーとして企業の新事業、製品・サービス開発を支援。デザインと経営の学際的領域で研究とプロジェクトを推進。



張 彦芳

芸術工学研究院
ストラテジックデザイン部門 准教授

専門分野ユニバーサルデザイン、ソサエタルデザイン デザイン現場にて様々な分野でユニバーサルデザインを実践した後、現在教育現場で、No one will be left behind (誰一人取り残さない)という理念に基づき、多様性を尊敬しながら共にデザインし、共に成長する仕組みづくり、社会実装の手法や可能性を研究しています。 同時に、世界的デザイン教育研究拠点のグローバルデザインネットワークの仕組みづくりに従事し、日本国内及び海外の産業界、研究機関と連携し、人・モノ・情報などを含めたデザイン研究教育のネットワークづくりの形成及び活用を取り込んでいます。



村上 慈

芸術工学府
ストラテジックデザインコース
環境省/行政官国内研究員（修士課程）

2026年度より環境省から九州大学大学院芸術工学府へ研究派遣中。
2023年度～2025年度、北九州市役所へ出向（環境局産業廃棄物対策課、環境局再生可能エネルギー導入推進課、政策局サステナビリティ戦略課）

Kumanomics



橋本 直樹

株式会社Kumanomics 代表取締役

東京大学卒業後、経済産業省で政策デザイン推進、パーソンズ美術大学院卒業。特許庁I-OPENでグッドデザイン賞受賞。24年退官しKumanomics創業、官民が共創する事業を多数立ち上げ。



平山 由佳

株式会社Kumanomics マネージングディレクター
一般社団法人 STUDIO POLICY DESIGNメンバー

経産省九州経済産業局にて、環境、半導体等様々な産学官連携組織におけるビジネス創出や人材育成を推進。
その間JAPAN+Dのコアメンバーとして行政へのデザインアプローチの実装を牽引。
多様な関係者・組織を巻き込みながら政策とビジネスの現場を繋いできた実務経験をもとに、行政と民間の枠を超え、デザインアプローチを核として社会的価値を創出する越境共創事業を推進。

前回の振り返り



Value
指針

であう

社会課題を自分ごと化し、仲間に出会い、ともに取り組む

プロトタイプをし、社会
。

26

Mission
リタラボの果たす役割

市民の力と産官学との共創により
社会課題への挑戦を生み出し続ける

的な創出を目指す。

25

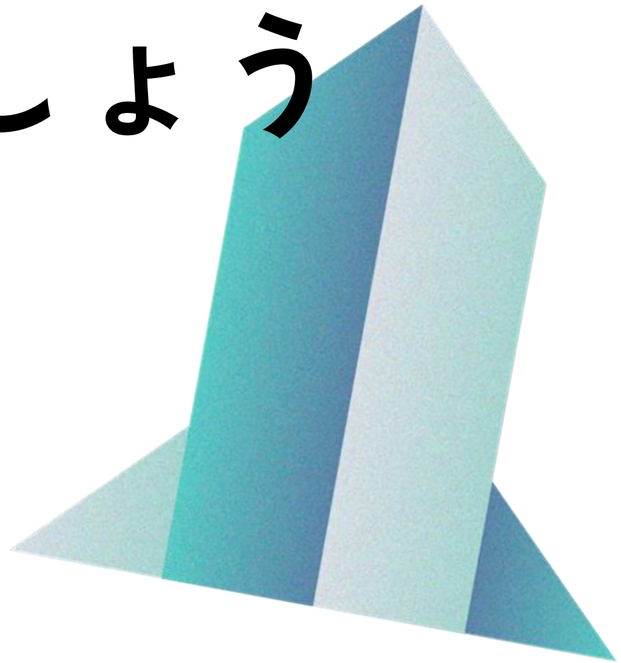
Vision
リタラボのありたい姿

これからの利他をデザインする
都市変革ラボ

これからの利他をデザインする、という思想をリタラボの中心に据え、
都市変革に向けた多種多様なプロジェクトを
市民と産官学との連携を通して創出し続けることを主の目的とする。

24

EQを育むこころの居場所づくり
プロジェクトについて、
解くべき問いを考えてみましょう



どうすれば

だれ/なに

に対して

何をどのように

することで

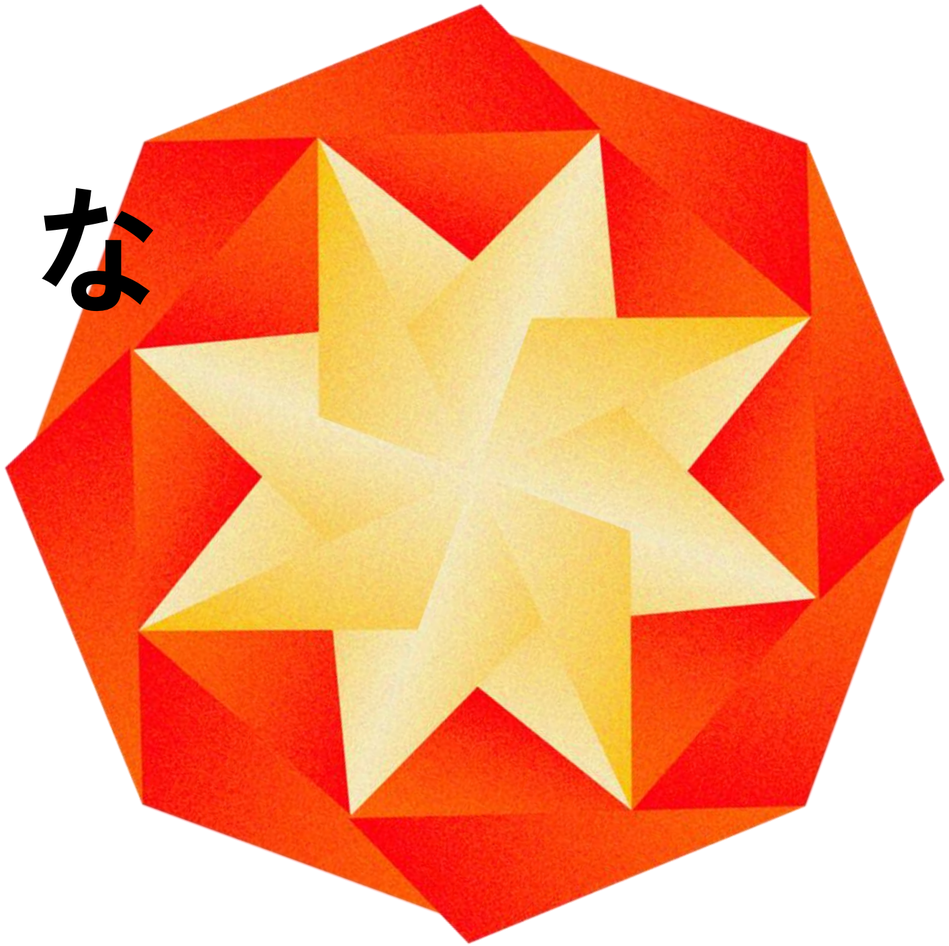
インパクトある変化を起こすことが

できるだろうか？

Retalabo 2026.9.24

氏名

リサーチや
あなたが一役買えそうな
ことのアイデアを
出しましょう



プロジェクトの始めかた、
メンバーのみなさんとの協働のしかたなどを検討中...

乞うご期待！

今日のゴール

リサーチから
課題の入り口に
つなぐ

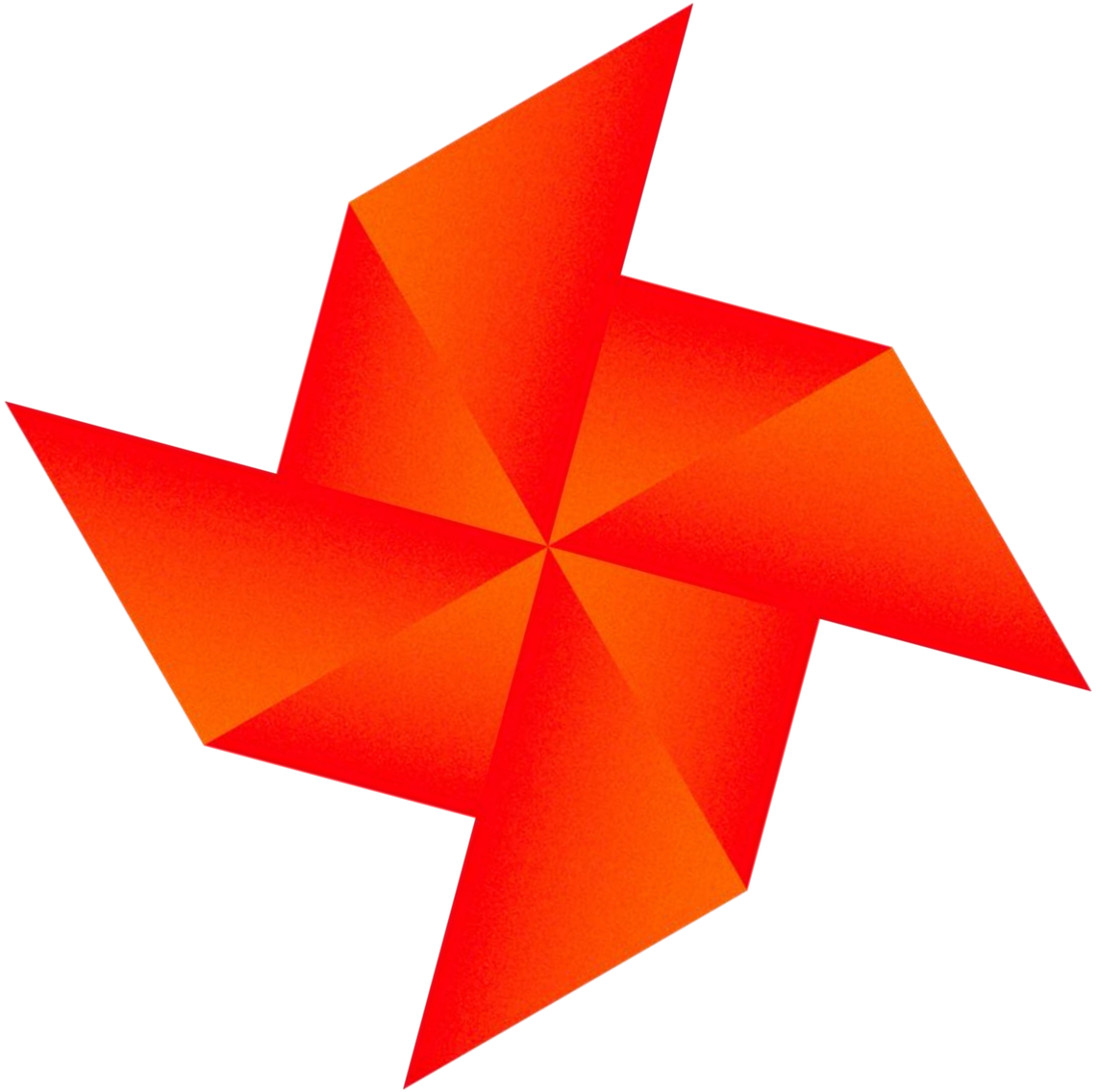
リタラボらしいテーマへの
向き合い方を
体験・検証
する

みんなの
やりたい！
を知る

今日の流れ

00 はじめに
01 Check-in
02 Work1：問いを考える
03 Work2：空き家とのつながりを考える
04 Work3：取り組む鍵を見つける
05 おわりに

Check-in



Check-in

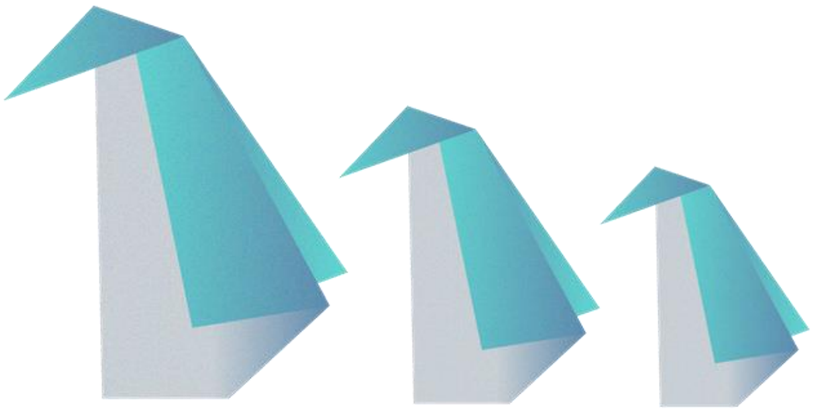
グループ

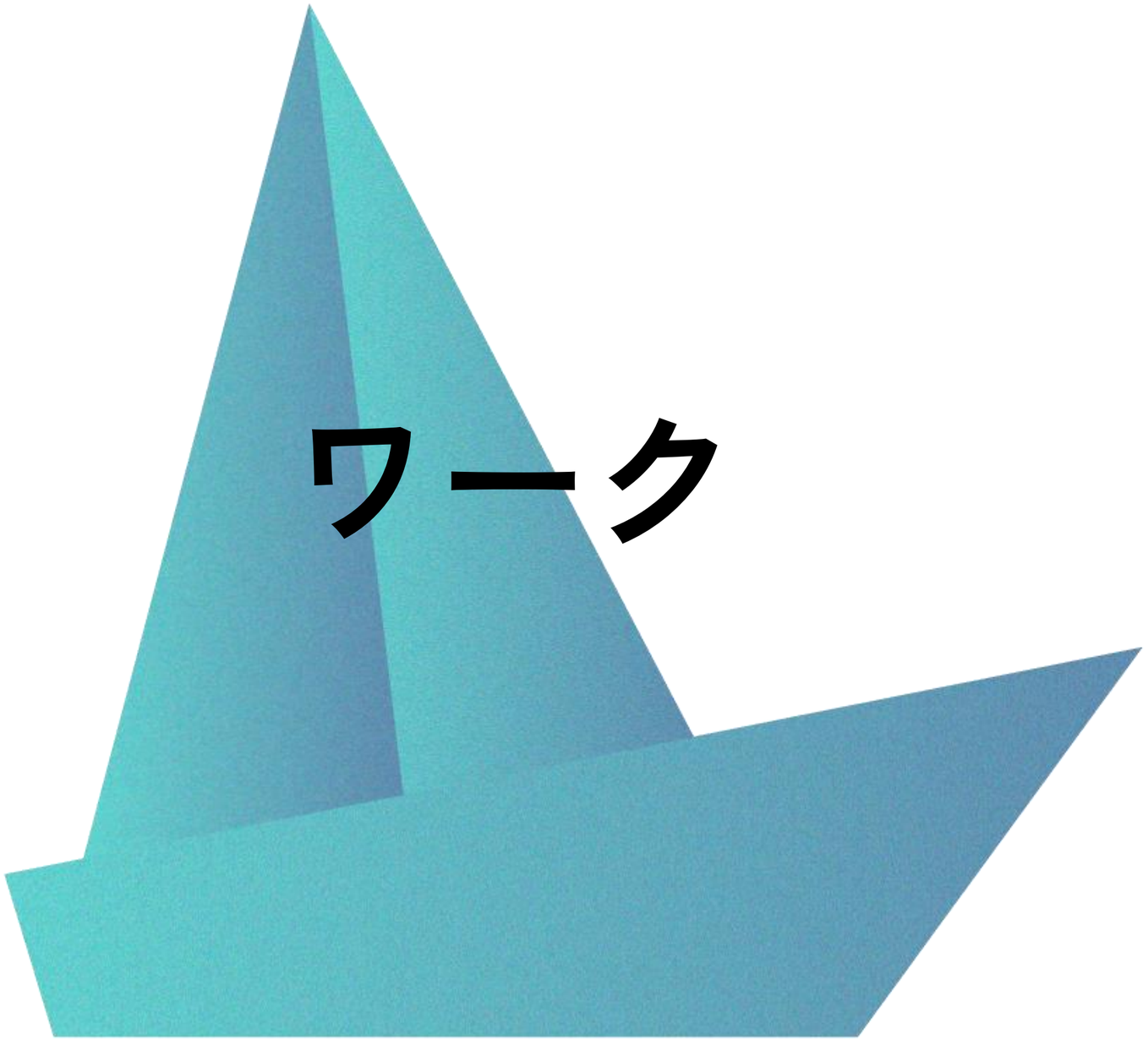
10
mins

各グループで自己紹介をしましょう。
その際、以下についてぜひ教えてください。

「わたしの関心ごと、
やりたいこと、夢は？」

仕事でも、プライベートでも
あなたが人生で取り組んでいきたいことを
教えてください




ワーク

ワークの流れ

Work 01
気づきを洗い出す

Work 02
空き家とのつながりを考える

Work 03
取り組む鍵を見つける


気づきを
洗い出す

Work 01

個人
10
mins

観察されたひと、資源、文化

歩いている人がいない

人の暮らしと融合した自然

時代を象徴してきた歴史

あなたの感じたこと・引っかかったこと

- どの瞬間？
- なぜ自分に引っかかった？
- 自分の関心とどこが重なった？

こんな景色があったとは。写真におさめたい

「まちを出たい」という若者の言葉が息子と重なった

まち一丸となって取り組む行事・祭がない？

Work 02

グループ

10
mins



グループで共有しましょう

Work 02

空き家との
つながりを
考える

Work 02

グループ

15
mins

空き家と関連するものを集め、

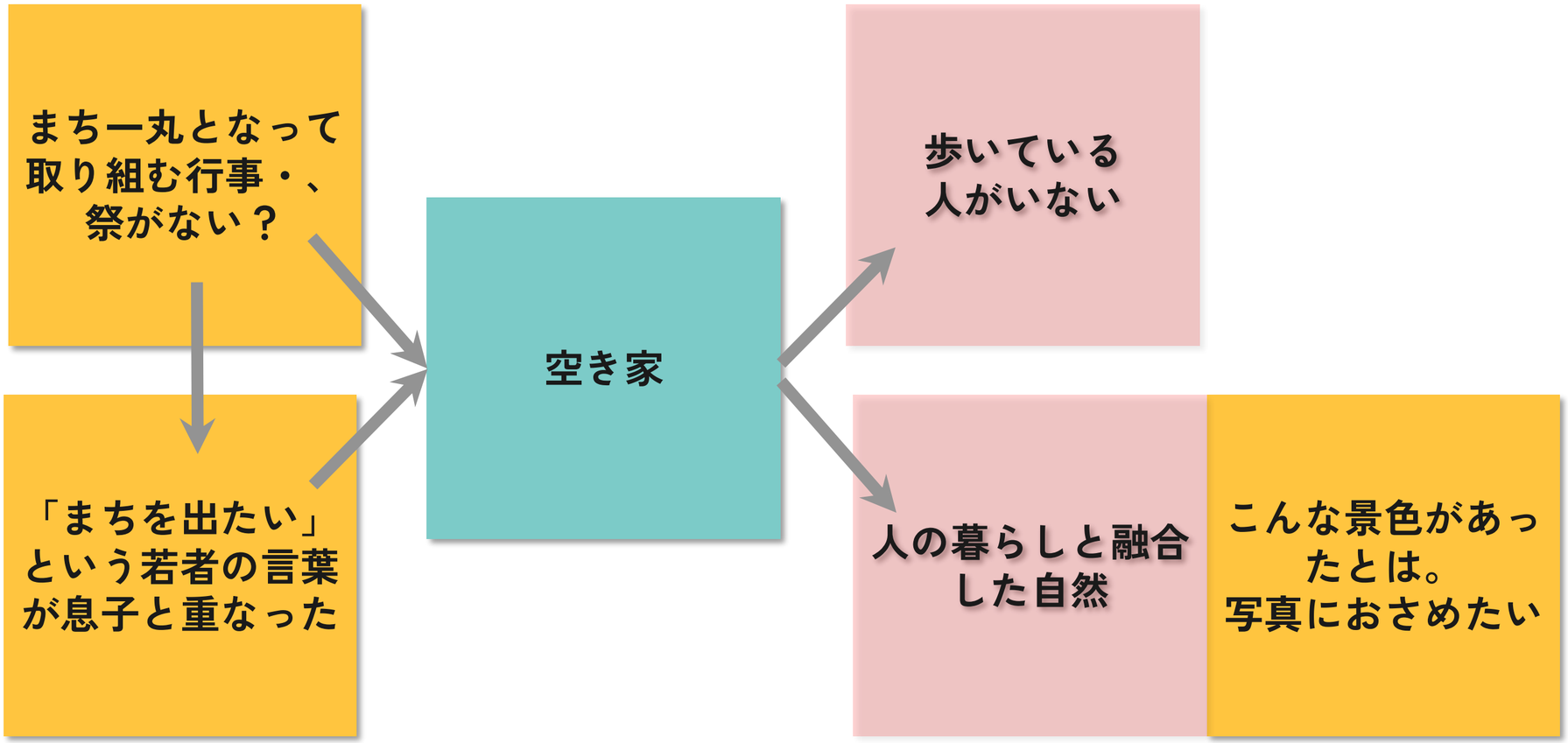
関係している要素同士をつなぎましょう

●関連する人・もの

●影響を与えていること

●結果として起きている・起きうること　...

Work 02


まち一丸となって
取り組む行事・、
祭がない？
「まちを出たい」
という若者の言葉
が息子と重なった
空き家
歩いている
人がいない
人の暮らしと融合
した自然
こんな景色があっ
たとは。
写真におさめたい

Work 03

取り組む鍵を
みつける

Work 03

グループ

15
mins

空き家の原因になっているもの・こと のうち、特にリタラボプロジェクトとして 取り組むべきポイントは？

●影響が大きい

●リタラボで取り組むことができる・リタラボならではの力が求められる

●メンバーが取り組むモチベーションを感じる！

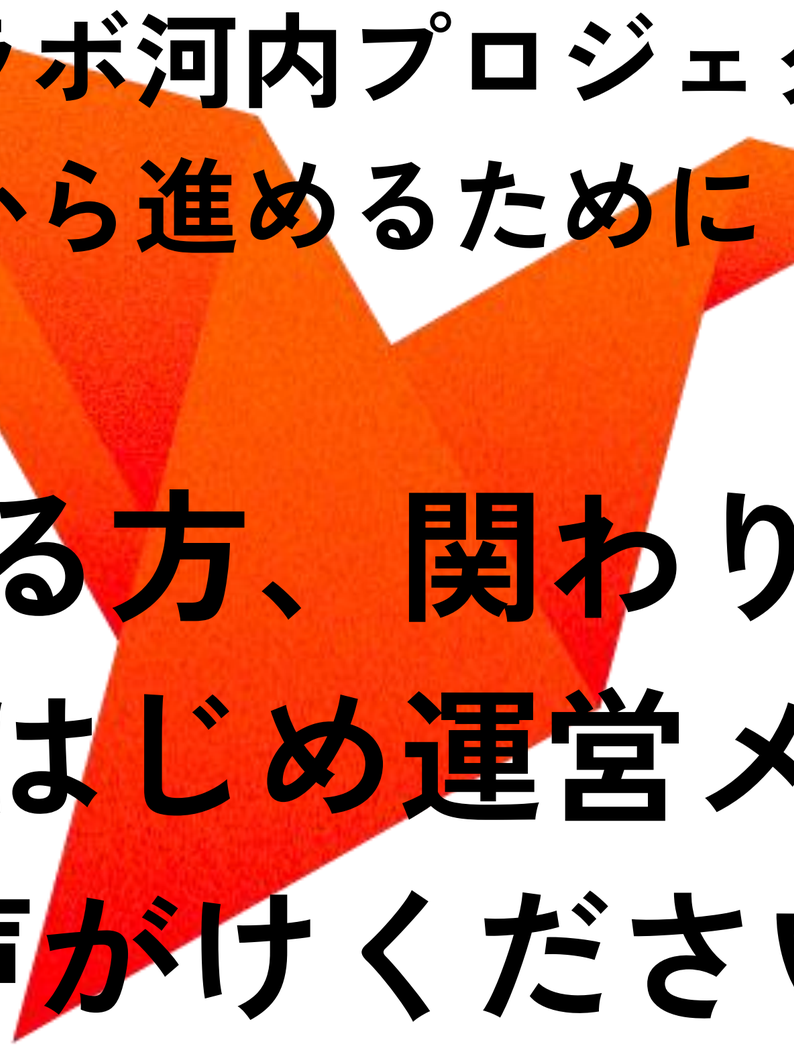
Work 03

全体

10
mins



リタラボ河内プロジェクトを
これから進めるために・・・



関心がある方、関わりたい方は
木原さんはじめ運営メンバーに
お声がけください！

また次回！

プロジェクトに関心のある方は、
声掛けor名刺を忘れずに